

過せしむ。

【天龍寺文書】 山城

七二五

臨川寺領加賀國大野庄年貢運送事、先度被仰之處不承引云々。太無謂。向後每度無煩可被勸過。若猶及異儀者、可有殊沙汰之由所被仰下也。仍執達如件。

應永十一年九月廿六日

沙彌 在判

山門七ヶ所關務衆徒中

(至德二年三月二日の條參照。)

是歲。鳳至郡重藏宮の大般若經を書寫す。

【重藏神社藏大般若經奥書】 鳳至郡

七二六

大般若波羅蜜多經第五百七十九

應永十一年甲申二月廿二日

筆者 禪重

【重藏神社藏大般若經斷簡】

七二七

于時應永第十一 七月廿日

執筆 鳳至院福田談義所

住僧 金剛佛子賢融

(第二通は卷數不明といへども、當時尙鳳至院の地名を存したるもの注意すべし。)

應永十二年 乙酉 紀元二〇六五

五月廿二日。山城相國寺、同寺領鳳至郡櫛比御厨内總持寺領に段錢を免除す。

【總持寺文書】 鳳至郡

七二八

相國寺領能登國櫛比御厨内惣持寺領段錢事、可被止催促候也。仍執達如件。

(應永十二年) 五月廿二日

都 聞 在判

當庄主禪師

(裏書) 爲後證所加判形也。

神保肥前入道

沙彌 在判

九月廿四日。山城醍醐寺理性院宗助、宗觀僧都に、その管領する院領加賀郡得藏等を讓與す。

【三寶院文書】 山城

七二九

讓與理性院坊舎并院領所々事

一、山城國笠取東庄

一、同國東安寺田

一、若狹國永富保

一、加賀國得藏

右所讓與宗觀僧都實也。代々爲院領上者、更不可有他妨者也。仍爲後日重讓与之狀如件。

應永十二年乙酉九月廿四日

前大僧正宗助 在判

應永十三年 丙戌 紀元二〇六六

閏六月十七日。幕府、山城祇園社寶壽院玉壽丸代に、同社領加賀郡萱野保の所領を全うせしむ。

【祇園社記】

七三〇

祇園社領加賀國萱野保内眞野名・茅原名・市名并屋敷等事、早任去年二月六日安堵并當知行之旨、可被全寶壽院玉

應永十三年・十四年

三二五

壽丸代所務之由、所被仰下也。仍執達如件。

應永十三年閏六月十七日

沙彌 在判

(斯波義重) 修理大夫入道殿

【祇園社記】

七三一

祇園社領加賀國萱野保内眞野名・萱原名・市名并屋敷等、去年二月六日安堵、今月十七日御施行如此。任當知行之旨、可被全寶壽院玉壽丸代所務之所也。可存知此旨之狀如件。

應永十三年閏六月廿五日

(斯波義重) 在判

二宮信濃入道殿

應永十四年 丁亥 紀元二〇六七

十一月十五日。高田中務入道道教、鹿島郡永光寺に、酒井保の山を寄進す。

【永光寺文書】 鹿島郡

七三二

能登國酒井保山之事